



学 会 通 信

第 109 号

2024 年 1 月 24 日発行

目次

2023 年度 第 30 回日本教育メディア学会年次大会 御礼	2
2023 年度 第 2 回研究会のご案内	3
国際学会 ICoME2024 のご案内	4
第 10 期 第 8 回理事会（定例） 議事録	4
2023 年度 定例総会 議事録（案）	6
論文投稿のご案内	7
学会費納入のお願い，入会者・退会者	8
訃報	11
弔辞	12

2023 年度 第 30 回日本教育メディア学会年次大会 御礼

第 30 回年次大会は、2023 年 11 月 4 日(土)・5 日(日)の 2 日間、関西大学初等部で開催されました。昨年度に引き続き、対面開催となり、学会員・非会員含め 173 名の参加がありました。それに加え、ハイブリッド開催の企画委員会特別セッションに 25 名のオンライン参加がありました。そして、4 年ぶりに懇親会を開催し、参会者間の親睦を深めることができました。

1 日目には、理事会、総会に続き、一般研究、シンポジウムⅠ、2 日目には課題研究および一般研究、企画委員会セッション、シンポジウムⅡが開催されました。一般研究は 2 日間とも 7 セッション開催され、合計 54 件の発表がありました。いずれのセッションでも熱のこもった議論が展開されました。

シンポジウムⅠでは「“Next GIGA”を教室の片隅で考える」と題して、山口好和氏（北海道教育大学）のコーディネートののもと、聞き手に前田康裕氏（熊本大学）、登壇者に東口貴彰氏（関西大学初等部）と八嶋孝幸氏（弘前大学教育学部附属小学校）をお招きしました。一人一台端末の普及啓発段階を経て、これからどのように活用して学びの質を深めるか、登壇者お二人の実践発表から、ICT 活用と教育の可能性、メディア実践の展望について知見を共有できる場となりました。

2 日目の課題研究では、「教職課程及び教員研修における ICT 活用」「情報活用能力の育成と捉え直しの可能性」「教育メディア研究におけるアートベース・リサーチの方向性」「学齢期前半までの ICT 活用の効果と課題」「メディア・リテラシーを育む学習環境やカリキュラムの多様性」の 5 つのテーマを設定し、コーディネータの進行のもと、合計 21 件の発表があり、活発な議論が交わされました。

一般研究と同時開催となった「企画委員会特別セッション 2023」では「現職教員のための実践研究はじめの一步」をテーマに、市川尚氏（岩手県立大学）のコーディネートののもと、浅井和行氏（京都教育大学理事・副学長）と関戸康友氏（パナソニック教育財団）と中川一史氏（放送大学）にご登壇いただきました。昨年度の内容を踏襲しながら、初等中等教育の現職教員向けに、実践研究の事例、進め方や考え方、学会との関わり方などを紹介していただき、参会者の議論も活発に行われました。

シンポジウムⅡでは、学会 30 周年企画として「日本教育メディア学会のこれまでとこれから」と題して、宇治橋祐之氏（NHK 放送文化研究所）の企画のもと、浅井和行氏（京都教育大学理事・副学長）、水越伸氏（関西大学教授、日本メディア学会会長）、高林友美氏（サイバー大学講師）にご登壇いただきました。本学会に関わりが深い領域の研究者である 3 名の登壇者から、これまでの研究成果を踏まえた上で、今後の学会の方向性についての提案があり、参会者がともに本学会のこれからを考える貴重な場となりました。

課題研究および一般研究のコーディネータ、学生スタッフ、参会して下さった皆様のお力で無事に大会を終えることができました。心より御礼を申し上げます。

(文責:関西大学初等部 石井芳生)

2023 年度 第 2 回研究会のご案内

テーマ「先端技術・教育データの利活用と教育メディア／一般」(現地開催)

日 時 2024 年 3 月 17 日(日) 10:00~16:00 (発表件数によって変更の可能性があります)

会 場 長崎大学 文教キャンパス 総合教育研究棟

<https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/access/>

担 当 長崎大学情報データ科学部・瀬戸崎典夫

主 催 日本教育メディア学会

次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術と教育データの効果的な利活用は、現代の教育課題の改善・解決や、教育の質を高める上で注目されています。また、Society5.0に向けた人材育成に向けて、教育ビッグデータやAI、IoT、VR/ARなどの先端技術を活用した教育メディアを積極的に活用した教育実践や教材開発に関する研究知見を蓄積していくことが重要だと考えます。

そこで、本研究会では、「先端技術・教育データの利活用と教育メディア」をテーマに、教育メディアを利用した教育実践や教材開発に関する研究発表を募集します。また、本テーマに関連した研究のみに留まらず、教育メディアに関する幅広い発表(一般)も歓迎いたしますので、多数のご参加・ご発表をどうぞよろしくお願い致します。

■開催方法

現地での対面開催とオンラインによるハイブリッド開催です。発表者は、申込時点で対面による発表かオンラインによる発表か選んでいただきます。対面参加者は、オンラインを含むすべての発表に参加・質疑ができます。オンライン参加者は、すべての発表を聞くことができますが、質疑はオンライン発表についてのみ可能です。

■発表申込締切 2024 年 1 月 31 日 (水)

■原稿提出締切 2024 年 2 月 29 日 (木)

■参加申込締切 2024 年 3 月 10 日 (日)

発表者・参加者とも対面・オンラインを問わず、必ず下記フォームより参加申込を行ってください。日本教育メディア学会会員でなくとも発表・参加が可能です。

■参加費 無料

■参加・発表申込フォーム <https://forms.gle/36NxLb6x4K9HRqQ86>

■その他

発表に関する詳細は、以下をご確認いただきますようお願いいたします。

<https://jaems.jp/meeting/guideline.html>

国際学会 ICoME2024 のご案内

2024 年度 International Conference for Media in Education (ICoME) のご案内を致します。ICoME 2024 は、日本教育メディア学会 (JAEMS)、韓国教育情報メディア学会 (KAEIM)、中国教育技術学会 (CAET)、TCCHawaii.org (NPO, 米国ハワイ州) が協力して開催する国際会議で、今大会で 22 回目を数えます。本大会のテーマは「Performative Approach to Media Studies in Education」としました。従来どおり、幅広い教育メディア研究に関する発表を募集すると同時に、本テーマに関するさまざまなパフォーマンスなアプローチでの研究を募集します。日本語および英語で詳細な情報を公開しておりますのでご確認ください。

- 日時：2024 年 8 月 21-23 日
- 場所：明治大学 中野キャンパス (JR 中野駅から徒歩 7 分)
- ウェブサイト：<https://2024.icome.education/> (英語)
- 学会ウェブページ：<https://jaems.jp/icone/> (日本語)
- 備考：2024 年 1 月 31 日より発表申し込みを開始します。

第 10 期 第 8 回理事会 (定例) 議事録

[日 時] 2023 年 11 月 4 日 (土) 10:00-11:30

[場 所] 関西大学初等部

[出席者] 会長, 理事 21 名, 監事 1 名

会長：中橋雄

理事：宇治橋祐之, 村上正行, 浅井和行, 池尻良平, 石井芳生, 市川尚, 稲垣忠, 岩崎千晶, 小柳和喜雄, 岸磨貴子, 黒上晴夫, 小林祐紀, 今野貴之, 鈴木克明, 関戸康友, 泰山裕, 寺嶋浩介, 永田智子, 堀田博史, 山本良太, 渡辺雄貴

監事：久保田賢一

事務局：高林友美

欠席：後藤康志，佐藤和紀，佐藤慎一，高橋純，中川一史，堀田龍也，佐々木輝美

<審議・報告事項>

(1) 入会者・退会者について（事務局）

前回理事会以降の入会者・退会者について説明があり，審議の結果承認された。

(2) 編集委員会（国内担当）

2023年度30巻1号と2号の査読・刊行状況が報告された。

(3) 編集委員会（国際担当）

Vol. 17のNo.1とNo.2の査読・刊行状況が報告された。

投稿数増加に向けた対応方針の検討結果が報告された。

(4) 研究委員会（国内担当）

第1回研究会の実施結果が報告された。

2023年度第2回研究会のスケジュールが報告された。

(5) 研究委員会（国際担当）

ICoME2023の開催結果が報告された。

ICoME2024の開催場所（明治大学中野キャンパス），日程（8/21-8/23）が報告された。

ICoME2024は東京というアクセスが良い場所で行われるので，例年委員会側主導で行っているカルチュアル・ツアーを廃止し，その代わりにワークショップを設ける企画案について説明があり，審議の結果承認された。

ICoME2024のテーマを”Performative Approach to Media Studies in Education”にする案について説明があり，審議の結果承認された。

(6) 広報委員会

2024年度の学会通信の台割りが報告された。

学会ウェブページのレスポンスデザイン追加の検討状況が報告された。

(7) 企画委員会

現職教員の会員数増加のために，年次大会で特別セッションを設けたこと，参加者の状況について報告があった。

(8) 年次大会委員会

年次大会の参加者が約150名，一般発表が55件，課題研究が21件であることが報告された。

2024年度の年次大会を鹿児島女子短期大学で開催すること，日程は10/5-10/6にすることが報告された。

(9) 日本教育メディア学会論文賞選考委員会

日本教育メディア学会論文賞の選考結果が報告された。

(10) その他

事務局より、2023年度の総会の流れが確認された。

以上

2023年度 定例総会 議事録（案）

1.日 時：2023年11月4日（土）13:00－13:50（年次大会第1日目）

2.場 所：関西大学初等部

3.内 容：

(1) 議案

議事に先立ち、今野事務局長から、有効な委任状（議決権を議長に委任）が44通電子総会システムより提出されており、総会への参加者が68名であり、学会会則第44条に従って2023年度定例総会が成立していることが報告された。また、会場校を代表して石井年次大会 実行委員長より挨拶があった。

第1号議案：2022年度事業報告及び収支決算承認の件

今野事務局長より、第1号議案として、機関誌発行、査読システムの運用、年次大会の開催、学术交流等、2022年度収支決算（案）が報告された。久保田監事より、通帳、領収書、帳簿を確認した結果、正確であったことが報告され、審議の結果、2022年度収支決算（案）について、異議なく承認された。

第2号議案：2023年度事業計画及び収支予算承認の件

今野事務局長より、第2号議案として、機関誌発行、査読システムの運用、年次大会の開催、学术交流等、2023年度収支予算（案）が報告された。審議の結果、2023年度事業計画及び収支予算（案）について、異議なく承認された。

第3号議案：その他

参加者からの議題はなかった。

(2) 報告事項

①表彰「日本教育メディア学会論文賞」審査報告と結果報告

黒上日本教育メディア学会論文賞選考委員会委員長より「日本教育メディア学会論文」審議経過と結果が報告され、表彰が行われた。

受賞者名：勝見慶子、田村隆宏、木村直子

論文名：幼児の ICT 利用の功罪に関する保護者の認識とその変容要因の検討～コロナ禍の影響を巡って～

掲載論文誌：教育メディア研究 第 29 巻第 2 号（研究論文）

②名誉会員の表彰

今野事務局長より、篠原文陽児先生を名誉会員に推薦したことが報告され、表彰が行われた。

③2024 年度年次大会の件

渡邊先生より、2024 年年次大会を、2024 年 10 月 5 日～6 日に鹿児島女性短期大学で開催することが報告された。

④その他

編集委員会（国内担当）の小柳理事より、国内学会誌の編集状況が報告された。

編集委員会（国際担当）の寺嶋理事より、国際学会誌の編集状況が報告された。

研究委員会（国内担当）の稲垣理事より、今後の国内研究会の予定が報告された。

研究委員会（国際担当）の岸理事より、2024 年の ICoME の予定が報告された。

企画委員会の市川理事より、年次大会の特別セッションの内容が報告された。

今野事務局長より、日本教育メディア学会の案内が報告された。

Jeeheon Ryu 先生がご挨拶をされた。

論文投稿のご案内

編集委員会

2023 年 8 月 15 日で締め切りました『教育メディア研究』特集号「教育データを活用したメディア教育のこれから」(Vol.30, No.2) の論文は、まもなく発刊となります。多くの投稿ありがとうございました。

今後の予定は以下の通りです。一般論文は随時受け付けております。

Vol.31, No.1 は、2024 年 2 月 15 日までの投稿を対象に審査を進め、2024 年 8 月末に発刊を予定しております。

Vol.31, No.2 (特集号) は、特集テーマが決まり次第、皆様にご連絡いたします。この号は、2024 年 8 月 15 日までの投稿を対象に審査を進め、2025 年 2 月末に発刊を予定しております。

「投稿規程」(<https://jaems.jp/journal/kitei.html>) を熟読の上、「テンプレート・投稿方法」のページから登録と投稿を行ってください (<https://jaems.jp/journal/guideline.html>)。

多く会員からの投稿をお持ちしております。

以上

学会費納入のお願い、入会者・退会者

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2023 年度 (2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日) の年会費 (正会員 7,000 円, 学生会員 4,000 円) が未納の方は、会員システムからお手続きください。学会 HP の「会員マイページ」よりアクセスいただくことが可能です。事務手続きの漏れを防ぐためにも、会員システムを通じたお支払いにご協力ください。

銀行振り込みをご希望の場合、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店 (ヨンイチハチ店) 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会 (ニホンキョウイクメディアガクカイ)
--

※ゆうちょ銀行口座からの振り込みの場合は、下記記号番号をご利用ください。

記号：14160

番号：8658501

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座から ATM を使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、**振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」**にして下さい。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、会費納入に併せて**年度ごと**に学生証などの証明書類のスキャンまたは写真データを会員システム経由で事務局宛に提出してください。**卒業・修了などにより学生会員の条件を満たさなくなった場合は事務局にメールでお知らせください。**

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」をご登録の住所に郵送しております。メールの不達、年度末の学会誌の返送が複数発生しております。確実にお届けするために、定期的に会員マイページにログインの上、登録情報の確認をよろしくお願いいたします。

また、まだ会員システムからマイページへのログイン登録がお済みでない方も、この機会にマイページ登録 (<https://jaems.jp/admission/mypage/>) をよろしくお願いいたします。

【入会者・退会者・除籍者】※敬称略

入会者・正会員 (8名)・・・目黒 敏満, 松倉 翔太, 奥山 敏基, 山本 シャーリ, 紺谷 遼太郎,
矢田 敦之, 森田 淳子, 恩田 真衣

入会者・学生会員 (6名)・・・イン リヨウ, 加澤 ねね, 伊藤 大輝, 高本 裕子, 中村 謙斗,
近藤 孝樹

退会者・正会員 (3名)・・・笠井 正隆, 森田 健宏, 西田 季里

退会者・学生会員 (1名)・・・大村 優花

会員種別変更 正会員→学生会員 (3名)・・・海道 朋美, 稲木 健太郎, 中村 恵

会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条では、会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。会費の納入状況についてご不明な点がございましたら、事務局 (office@jaems.jp) までご連絡ください。

第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

(1) 正会員, 学生会員, 団体会員ならびに購読会員が、会費を3年間滞納したとき、その年度末をもって除籍され、会員の資格を喪失する。

(2) 除籍された元会員が再入会するとき、滞納会費の納入を要する。

会員総数 390名・12団体

名誉会員 : 7名*

正会員 : 321名

学生会員 : 69名

団体会員 : 6団体

購読会員 : 6団体

(2024年1月14日現在)

*会員総数に含まず。7名の氏名は学会HPにて公開。

◆ 学会通信アーカイブ作成ご協力のお願い ◆

本学会は定期的に学会通信を発行し、学会 HP にて公開しています。現在、一部未公開となっている学会通信も揃えられるよう、学会事務局では以前の学会通信を探しております。お手元に第 1～16, 18, 27 号が紙もしくはデータ等で残っている場合、学会事務局(office@jaems.jp)までお知らせください。ご協力の程、何卒よろしく願いいたします。

訃報

本学会に多大なご支援とご指導をいただき、2003～2009年に会長を務められた生田孝至（いくた たかし）先生（新潟大学名誉教授，元新潟大学副学長，本学会名誉会員）がお亡くなりになりました。

○2024年1月12日ご逝去。享年80歳。

○葬儀・告別式は家族葬にて執り行われました。

安らかな眠りにつかれますよう心よりお祈り申し上げます。

弔辞

後藤 康志（学会理事 新潟大学准教授）

生田孝至先生は、昭和18年11月1日に新潟県佐渡に生まれ、新潟大学教育専攻科を修了後、国際基督教大学大学院教育学研究科に進み、国際基督教大学助手を経て、昭和48年新潟大学助手として教育学部に採用されました。講師、助教授を経て平成元年新潟大学教授に就任、日本教育メディア学会会長、日本視聴覚教育協会会長などを歴任し、視聴覚教育、教師教育の振興に尽力されました。

生田先生の業績は膨大で、テレビジョンと学業成績、認知型テストの日本語版に関する研究、ピクトリアルメディアの評価などがありますが、代表的な研究では映像認知構造についての研究があります。映像視聴能力研究においては、音声やテロップといった映像以外からの情報と、映像からの情報をどう扱うかが研究上の大きな課題でした。そこで、音声による言語情報が全くなく、かつ映像制作者による映像構成の意図が把握可能な映画「裸の島」を題材とし、調査を実施しました。主要場面を抽出し、多次元尺度法によって解析した結果、時間軸において近く内容的にも連続性を持つ「近接関係」場面の抽出が確認されたとともに、時間軸において遠くでありながらも制作者の内容的意図としての連続性を持つ「遠隔関係」を指示する場面布置が得られ、いわゆる伏線理解があることを明らかにしました。更に映像視聴能力の構成要素を場面把握、状況把握、先読み、技法理解、感情移入とし、質問紙を構成して、調査を行った結果、小学校5年生と6年生の間に断層が見られ、映像視聴能力の発達の側面が明らかになりました。井上光洋先生、水越敏行先生、松井仁先生との共同研究で、研究会などでは、生田先生や参会者が熱く議論したことを覚えています。

次に、教師の認知研究及び教師の技術向上の研究です。授業の過程は、授業事象に対する教師の認知とそれに基づく教師の対応行動のプロセスであり、リアルタイムでの授業展開の流れに沿ってなされる意志決定の過程です。しかし、教師の認知研究ではリアルタイムでの認知はデータが取れなかったのです。そこで、複数の経験教師が授業観察においてオン・ゴーイング法による即時的内言発話をを行い、その記録を対象として、それぞれの教師の認知過程の特徴と、背後にある観察者の教育観、教材観、子ども観、指導観などが明らかにされました。最新の研究では360°カメラ撮影で可視化・再現することにより、これまで困難とされた暗黙知の伝承が可能となるのではないかと着想し、VR映像の非同期型学習環境として構築し、実装し、教員養成・教員研修の高度化に大きく貢献しました。この研究では生田研の修了生、卒業生なども参加し、学会などで成果を発表しました。

「番組を視聴して子供が学ばないのであれば、それは作り手の問題である」。国際基督教大学の西本三十二先生の言葉だそうです。教材、提示、説明、問いで子供と興味関心を喚起し、思考を促す「仕掛け」が大事であると。生田先生は、この言葉を教員養成において大原則であり、課題と捉えたそうです。更に、「仕掛け」が機能するためには、同時にエネルギーも必要でした。「生田研は厳しい」「生田研でサバイバルすれば、どんな学校現場でもやっていける」「生田先生は凄い、あんなに叱ってくれる人はいない」。確かに厳しかった。でも修了生、卒業生からみて、楽しい思い出しかないのです。何故か。「勉強したら、遊ぶ」をモットーとしているからでした。研究会やゼミが終わった後は、温泉に入ったり、スキーに行ったり、海に入ったり、山に入ったり。山に入るとは、山菜取りです。ハードモードです。「先生、この雪

溪, 行くんですか??」ということもありました。これも「仕掛け」なのでしょう。

いつまでもご指導を受けたいと思っていましたが, これでお別れです。先生から受けた教えを大事に, 教育や研究に努めて参ります。

安らかにご永眠されますようお祈りいたします。

<p>日本教育メディア学会 事務局</p> <p>〒191-8506 東京都日野市程久保 2-1-1 明星大学 教育学部 今野貴之 研究室内</p> <p>E-mail : office@jaems.jp 学会ホームページ URL : http://jaems.jp/</p>	<p>広報委員会</p> <p>委員長 岩崎千晶 (関西大学) 副委員長 永田智子 (兵庫教育大学) 委員 井ノ上憲司 (大阪大学) 尾崎拓郎 (大阪教育大学) 高橋暁子 (千葉工業大学) 多田泰紘 (京都橘大学)</p>
---	--